

ヘルスアセスメント

単位数（時間数）：1 単位（30 時間） 必修/選択：必修 履修年次：1 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：教授・土田 幸子

科目担当者（職位・氏名）：教授・永井 睦子、助教・野中みつ子、助教・山田 英子、
助教・武田恵梨子

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽
科目記号：48

■ 授業概要

看護におけるヘルスアセスメントの定義や目的、問診・視診・触診・聴診・打診の方法および系統別フィジカルアセスメントの目的と方法を教授する。具体的には、バイタルサイン、系統別フィジカルアセスメント技術を学び、学生同士ならびにシミュレーション教材を活用した演習を通して、対象を全人的にアセスメントできる基本的能力（知識・技術・態度）を養う。

■ 到達目標

1. ヘルスアセスメントの構成要素と意義を理解し、説明できる。
2. ヘルスアセスメントの展開に必要なコミュニケーション技法を理解し、対象者を理解するために必要な問診が実施できる。
3. フィジカルアセスメントの意義と方法を理解し、対象者の安全・安楽を考慮して実施できる。
4. 日常の自己の身体変化に関心を持ち、フィジカルアセスメント能力を向上させる。

■ 教育内容

基礎看護学

■ キーワード

アセスメント、ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、情報の収集と解釈、判断

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	授業ガイダンス ヘルスアセスメント①	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスアセスメントとは ・ヘルスアセスメントの意義と実践 ・看護実践へのヘルスアセスメントの活用 ・ヘルスアセスメントを構成する基本項目 <p style="text-align: right;">【講義】</p>	土田
2	ヘルスアセスメント②	<p>1. 初期アセスメント</p> <p>健康歴と、健康歴の内容</p> <p>一般状態の観察項目とアセスメント</p> <p>(全身状態、バイタルサイン、身体測定)</p> <p style="text-align: right;">【講義】</p>	土田
3	ヘルスアセスメント③	<p>2. フィジカルアセスメントの目的と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通技術（視診、触診、打診、問診） ・身体的側面のアセスメント Head to toe <p style="text-align: right;">【講義】</p>	土田
4	ヘルスアセスメント④	<p>3. 栄養アセスメント</p> <p>4. 心理、社会的側面のアセスメント</p> <p style="text-align: right;">【講義】</p>	土田
5	ヘルスアセスメント⑤ 初期アセスメント実際	<ul style="list-style-type: none"> ・問診：健康歴の聴取 ・視診：一般状態の観察 <p style="text-align: right;">【演習】</p>	共同
6	フィジカルアセスメントの実際 系統別のアセスメント①	<ul style="list-style-type: none"> ・頭頸部のアセスメント ・筋、骨格系のアセスメント ・神経系のアセスメント <p style="text-align: right;">【講義】</p>	野中
7	フィジカルアセスメントの実際 系統別のアセスメント②	<ul style="list-style-type: none"> ・胸部（呼吸器系、乳房）のアセスメント <p style="text-align: right;">【講義】</p>	野中
8	フィジカルアセスメントの実際 系統別のアセスメント③	<ul style="list-style-type: none"> ・胸部（心臓・血管系）のアセスメント <p style="text-align: right;">【講義】</p>	山田
9	フィジカルアセスメントの実際 系統別のアセスメント④	<ul style="list-style-type: none"> ・腹部（消化器系、腎・泌尿器系）のアセスメント <p style="text-align: right;">【講義】</p>	山田

10	フィジカルアセスメントの実際 フィジカルアセスメントの実際① (筋・骨格系)	【演習】2グループに分かれて実施する (スケジュール等の詳細は配布する演習 要項を確認すること)	共同
11	フィジカルアセスメントの実際② (肺・呼吸器系)		共同
12	フィジカルアセスメントの実際③ (腹部・消化器系)(心臓・血管系)	【演習】2グループに分かれて実施する (スケジュール等の詳細は配布する演習 要項を確認すること)	共同
13	フィジカルアセスメントの実際④ (頭頸部、神経系)		共同
14	全身の健康状態の観察	【演習】2グループに分かれて実施する ・シミュレーション演習 (正常呼吸音、腸音、心音) ・観察内容の検討と発表	共同
15			

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

期末試験 70%、演習への取り組み状況（ワークシート・事後レポート内容の目標到達状況、提出状況、） 30%により総合的に評価する。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・ワークシート課題や事後レポートのフィードバックは、コメントを付して返却または全体の総評コメントを公開する。
- ・演習への取り組み状況のフィードバックは、その都度、全体もしくは学生個々に口頭にて行う。
- ・希望者に対して、定期試験のフィードバックを行う。希望者は、結果発表日から 2 週間以内に、科目責任者にアポイントをとること。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
基礎看護学 ② ヘルスアセスメント

■ 参考書・参考資料等

- ・医療情報科学研究所編（2019）『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』メディックメディア
- ・講義内容を深めるための資料を配布する。また、演習時は演習要項を配布する。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業 1 コマにつき、事前・事後学修それぞれ 45 分程度（計 90 分程度）必要とする。
- ・授業前：講義では教科書該当箇所を通読、ワークシートを作成する。また、学習する単元内容の人体の構造と機能、生理学的な知識について事前学修する。
演習では演習要項の熟読および演習課題を作成する。
- ・授業後：各系統別形態機能学を復習する。演習課題をまとめる。技術修得および技術チェックに向けて計画的に自己練習する。

■ 担当教員からのメッセージ

看護の対象となる人の身体を身体機能のみならず、栄養状態や心理面・社会面を総合的にみることの意義と、その方法を学ぶ科目です。形態機能学の知識が基盤となりますので、復習を欠かさずにおこなって臨んでください。演習では技術を修得するだけでなく、対象者へ接するときの対手を尊重した態度で接し、相手に与える自己の印象などについて考えて行動してください。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 25 hyamada★iwate-uhms.ac.jp、オフィスアワー：特に定めませんが、事前に連絡して訪問してください。

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

各教員が臨床経験を活かし、ヘルスアセスメントに関する専門的で実践的な講義・演習を行っています。